

令和3年(2021年)度オンライン「日本留学フェア」報告書

(対象:サブサハラ・アフリカ全域)

日本留学海外拠点連携推進事業サブサハラ拠点
北海道大学アフリカルサカオフィスおよびナイロビサテライト

1. フェア概要

(1) 開催概要

- 本「日本留学フェア」は、文部科学省日本留学海外拠点連携推進事業の一環として開催された。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、令和2年度同様オンラインでの実施となった。計4回のフェア詳細は以下の通り。

本報告書内の簡略記号	フェア名(和名)	日程	実施時間(日本時間)	フェア参加者数
A	学士課程・短期留学希望者向け オンライン日本留学フェア	2021年8月3日(火) ～5日(木)	午後4時～6時	事前登録者:505名 参加者:102名
B	大学院[文系]留学希望者向け オンライン日本留学フェア	2021年8月25日(水)～ 27日(金)	午後4時～6時	事前登録者:501名 参加者:133名
C	大学院[理系]留学希望者向け オンライン日本留学フェア	2021年9月8日(水) ～10日(金)	午後4時～6時	事前登録者:924名 参加者:234名
D	大学院留学希望者向け オンライン日本留学フェア	2022年2月26日(土)	午後6時～9時	事前登録者:2,732名 参加者:407名

- 参加大学の募集は、過去に日本留学フェアに参加した大学(111校)や、日本・アフリカ大学連携ネットワーク(JAAN)加盟大学(約30校)等に対して募るとともに、JICAには ABE イニシアティブ等の留学生受入れ大学、JASSOには関係大学・機関等に対する出展募集の配信を依頼した。結果、54大学から参加があった。

フェア	参加プログラム数合計		参加大学数
	うちグループ相談会対応の参加プログラム数	うち広報資料提出のみの参加プログラム数	
A	30	8	32
B	13	10	23
C	33	11	35
D	35	0*	22

*広報資料提出のみの参加募集は実施しなかった。

参加大学名:愛媛大学, 宇都宮大学, 叡啓大学, 横浜国立大学, 岡山大学, 会津大学, 京都先端科学大学, 京都大学, 金沢大学, 九州大学, 熊本県立大学, 熊本大学, 慶應義塾大学, 工学院大学, 広島大学, 弘前大学, 国際基督教大学, 国際大学, 山口大学, 山梨学院大学, 山梨大学, 秋田大学, 神戸情報大学院大学, 創価大学, デジタルハリウッド大学, 早稲田大学, 足利大学, 帯広畜産大学, 大阪大学, 筑波大学, 長崎大学, 鳥取大学, 帝京大学, 電気通信大学, 島根大学, 東京医科歯科大学, 東京外国語大学, 東京国際大学, 東京大学, 東亜大学, 東京農業大学, 東北大学, 東洋大学, 同志社大学, 兵庫県立大学, 法政大学, 北見工業大学, 名古屋大学, 名古屋商科大学, 明治学院大学, 立命館アジア太平洋大学, 立命館大学, 龍谷大学, 北海道大学(計54大学, 順不同)

- **マッチング強化:** 学部や文系大学院に就学するサブサハラ地域からの留学生数の増加、および参加者と参加大学とのマッチング強化を目指し、課程別、分野別にフェアを実施した。また、大学全体ではなく、各プログラムの紹介にポイントを置くことで、希望するプログラムの情報を参加者が得やすいようにした。
- **アクセシビリティへの配慮:** サブサハラ全域を対象としたオンライン・フェア実施のため、現地の脆弱なインターネット環境の中でもアクセシビリティを確保するデータ処理に強いサーバーを使用し、ユーザーへの通信料金の負担を極力抑え、かつデータ通信量を少なくしてアクセスや検索できるフェア専用の特設サイトを開設した。
- **特設サイトのプラットフォーム化:** 特設サイトは事業ウェブサイトおよび本事業で開設している大学検索データ・ポータルとも連結させ、留学手続きや留学後のキャリア・パス情報の提供といった総合的な日本留学情報から各大学の詳細までも網羅することのできるプラットフォームとして機能させた。
- **交流の活性化:** 前回のフェアでの反省点を踏まえて、オンライン上で本邦大学関係者と参加者がライブかつ口頭でコミュニケーションがとれ、インタラクティブな質疑応答が出来るグループ相談会の場を設けた。
- **ハイブリッド形式の模索:** 2021年10月以降に留学コーディネーターが現地に帰任後、ケニアでのコロナ感染状況の改善が見られたことから、2022年2月開催のフェアDでは、プレイベントとして、首都ナイロビの有力大

学を訪問し、対面で学生に対し広報活動を行うなど、対面とオンラインのハイブリット形式の活動を展開した。

- **在外公館等、現地機関との連携**: 現地の日本国大使館、JICA、JSPS等に協力いただきフェアの事前広報活動を行った。在ケニア日本国大使館、JETROナイロビ事務所、JICAケニア事務所、JSPSナイロビ研究連絡センター、国際交流基金、ケニア日本語教師会には後援および協力を得て本フェアを実施した。

(2) 開催方法およびプログラム

- **広報**: 参加者の募集には、本事業および現地の在外公館・事務所等の HP やメールリングリスト、SNS に加え、TV、ラジオ、新聞等のマスメディア等を活用した。特に、サブサハラ地域のほぼすべての日本国大使館(計 18)の SNS(主に Facebook)を通して広報を行った。また、本事業用の SNS(Facebook や Twitter 等)では、フェア参加大学を紹介する際に課金広報を行い、各大学のプログラム紹介を行った。マスメディアに関しては、フェア実施時期に併せて日本留学に関連する情報を発信した。TV はナイジェリア(ChannelsTV)とガーナ(GH ONE)、ラジオはタンザニア(Clouds Entertainment)、ルワンダ(Kiss FM)、ウガンダ(Capital FM)、新聞はセーシェル(Nation 紙)、タンザニア(Mwananchi 紙)、南アフリカ(IOL サイト)など、多媒体を活用した。優秀層および有力校への広報として、高校レベルではサブサハラ地域のインターナショナル校を中心とする約 170 校、大学レベルでは本事業の重点国(14 カ国)を含む計 17 カ国の有力大学(計 261)に対して留学フェアの情報提供を行った。また、フェア D ではイベントとしてケニアの有力大学(ナイロビ大学、ケニヤッタ大学、ジョモ・ケニヤッタ農工大学)を訪問し、対面でフェアの広報活動を行った(参加者数計 298)。
- **開催方法**: 第 1 部の「全体説明会」では留学コーディネーターが日本留学全般に関して情報提供をする 80 分間のライブ動画配信、第 2 部は各参加大学のプログラム紹介の録音動画の配信と各大学によるグループ相談会を行った(フェアDでは、各参加大学のプログラム紹介動画はグループ相談会内で配信する対応となった)。第 1 部は、フェアA、B、Cでは札幌(北海道大学)とナイロビから、フェアDはナイロビからライブ配信を行った。
- **参加登録**: 事前登録制とし、登録の際に、名前、出身国、メールアドレス、所属先、身分(ステータス)、専攻分野に加え、英語・日本語の語学能力、日本語の学習歴の有無、本邦大学への応募状況、日本留学を希望する理由、フェア情報の入手方法等について回答を求めた。さらに、第 1 部・第 2 部の各セッションへの参加は、事前予約制をとり、予約後に各セッションのリンクが登録メールアドレスに送付されるとした。事前登録および予約に関しては、協力会社(DoorKel)のシステム「SchoolLynk」を利用した。
- **各大学の参加形式**: 2 形態の参加方法を本邦大学に提示した。それぞれ、①口頭発表を通して大学 PR するプログラム紹介動画(8 分以内の録画)の提供と各大学担当者が参加者と Zoom 上で直接質疑応答を行う「問い合わせ対応」と、②各大学の英語プログラムや奨学金情報をまとめた PDF 資料(A4 紙 2 枚以内)と既存の広報用パンフレットの提供、である。①を選択する場合②は必須とした。
- **全体説明会(第 1 部)の内容**: 「日本留学の概要」、「奨学金制度」、「帰国留学生の体験談」、「卒業後の進路」、「日本語学習」の各テーマに沿って、留学コーディネーター、現役および帰国留学生が発表した。また各発表に関する参加者からの質問は Zoom のチャットや Q&A ボックス上で留学コーディネーターが回答した。後半には約 20~30 分間の時間を確保し、留学コーディネーターが現役および帰国留学生に対して、日本留学に関する「よくある質問」をおこなう対話方式のセッションを設けた。
- **参加者への資料提供**: フェア特設サイトの「University Course List」のページに、専攻分野毎に各大学名とそのプログラム名およびそのロゴを並べ、各大学のページではプログラム紹介動画や資料・パンフレットを閲覧できるようにした。また、同特設サイトの「Helpful Information」のページに、後援・協力機関から提供された動画や資料も掲載し、参加者が同サイト内でより平易かつ効率的に情報収集が出来るようにした。
- **グループ相談会**: 参加大学に 90 分間のうち 1 コマ(30 分)以上のライブでの問い合わせ対応を依頼した。各大学がグループ相談会用の Zoom リンクを事前作成し、同リンクは事前予約した参加者の登録メールアドレスへ、「SchoolLynk」を通して送付された。
- **参加者へのフェア後のフォローアップ**: 本フェア登録者を、本事業のメールリングリストに入れることで、フェア後も奨学金を含む日本留学に関する最新情報を継続的に提供する。また、フェア終了後も特設サイトは一定期間閲覧可能な状態とすることで、フェア登録者を含む留学希望者が情報収集できるようにしている。
- **本邦参加大学へのフェア後のフォローアップ活動**: 留学フェア後に本事業と協力してプログラム紹介を希望する以下の大学に対して、個別ウェビナーの実施や広報のサポートを行った。

岡山大学(GDP)、東洋大学(GINOS、INIAD)、立命館アジア太平洋大学(APM、APS)、東京外国語大学(IAfP)、九州大学(International Undergraduate Programs)、立命館大学(English-medium Undergraduate Programs)等。

2. アンケート結果

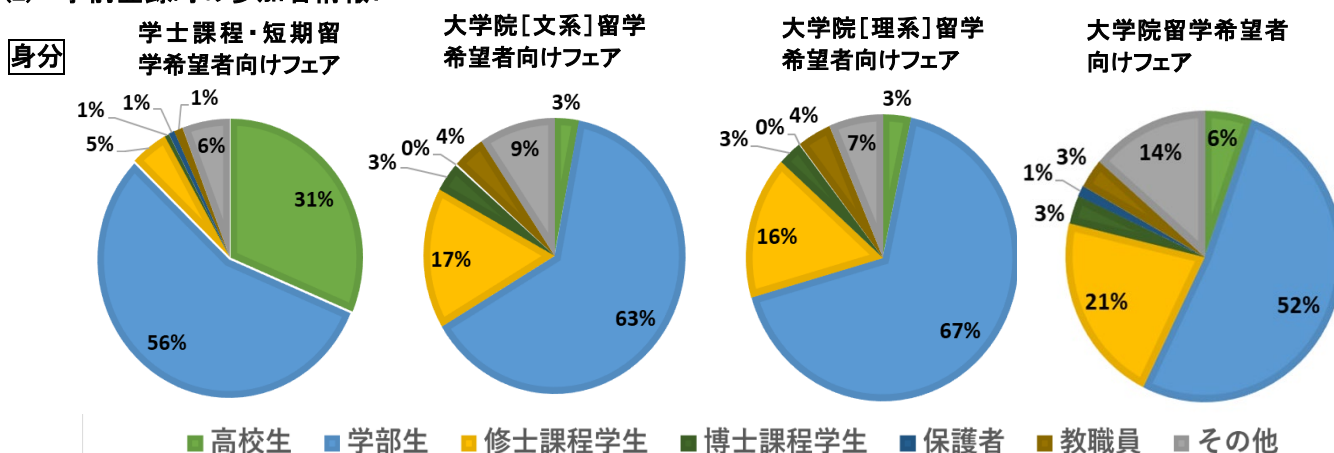
(1) 概要: ①事前登録アンケート(「(2) 事前登録時の参加者情報」のデータソース)

	フェア名	回答数	実施方法と内容
A	学士課程・短期留学希望者向けフェア	505	実施方法: SchoolLynk 質問数: 15 内容: 参加者の属性(7)、語学力に関する質問(4)、日本留学に関する質問(4)
B	大学院[文系]留学希望者向けフェア	501	
C	大学院[理系]留学希望者向けフェア	924	
D	大学院留学希望者向けフェア	2,732	

②事後アンケート(「(3) 参加者による事後評価」のデータソース)

	フェア名	回答数	実施方法と内容
A	学士課程・短期留学希望者向けフェア	52	実施方法: SchoolLynk 質問数: 11 内容: 参加者の属性(2)、フェア参加の感想・日本留学に関する質問(9)
B	大学院[文系]留学希望者向けフェア	58	
C	大学院[理系]留学希望者向けフェア	15	
D	大学院留学希望者向けフェア	354	

(2) 事前登録時の参加者情報:



言語(登録者の英語力)

英語能力試験受験の有無とスコア	学士課程・短期留学希望者向けフェア	大学院[文系]留学希望者向けフェア	大学院[理系]留学希望者向けフェア	大学院留学希望者向けフェア
IELTS 7.5~9 / TOEFL iBT 102~120	27	23	49	169
IELTS 6~7 / TOEFL iBT 60~78	21	31	42	173
IELTS 5~5.5 / TOEFL iBT 35~59	14	6	18	65
IELTS under 4.5 / TOEFL iBT under 34	5	4	8	22
受験経験なし(全体に対する割合)	417 (75%)	365 (73%)	671 (73%)	1,922(70%)
無回答	71	72	136	381
計	555	501	924	2,732

・ IELTS や TOEFL 等の英語能力を証明するスコアを有する者は 3 割程度である。

言語(登録者の日本語能力)

日本語能力試験 (JLPT) 受験の有無とスコア	学士課程・短期留学希望者向けフェア	大学院[文系]留学希望者向けフェア	大学院[理系]留学希望者向けフェア	大学院留学希望者向けフェア
JLPT スコアあり(全体に対する割合)	24 (4%)	29 (6%)	33 (4%)	87 (3%)
N1	8	6	8	31
N2	4	4	4	9
N3	4	5	6	17
N4	0	5	5	7
N5	8	9	10	23
受験経験なし	465	408	764	2,287
無回答	66	64	127	358
計	555	501	924	2,732

・ JLPT のスコアを保有する割合は高くはないが、一定数存在する。

日本の大学への応募した経験がある登録者と日本語能力の関係

	学士課程・短期留学 希望者向けフェア	大学院[文系]留学 希望者向けフェア	大学院[理系]留学 希望者向けフェア	大学院留学 希望者向けフェア
日本の大学への応募した経験がある 登録者(全体に対する割合)	26 (5%)	35 (7%)	48 (5%)	118 (4%)
応募した日本の大学名を明記 した登録者	18	25	33	83
日本の大学への応募した経験 があり、且つ日本語能力試験 (JLPT)スコアをもつ登録者	4	8	8	22
N1	1	2	2	12
N2	3	2	2	4
N3	0	0	1	1
N4	0	1	0	0
N5	0	3	3	5
計	555	501	924	2,732

- ・ JLPT のスコア保有者は日本留学に高い関心を示しており、N1や N2を合格している者もいる。
- ・ 登録者で日本の大学へ応募経験があるものは 5%程度、うち JLPT スコア保有者が一定数含まれている。

日本留学を希望する理由

	学士課程・短期留学 希望者向けフェア	大学院[文系]留学 希望者向けフェア	大学院[理系]留学 希望者向けフェア	大学院留学 希望者向けフェア
1	Academic environment (32.8%)	Academic environment (39.5%)	Academic environment (45.2%)	Academic environment (37.7%)
2	Interested in Japanese society (25.9%)	Interested in Japanese society (25.1%)	Interested in Japanese society (21.5%)	Interested in Japanese society (21.9%)
3	To work in Japan or Japanese companies (18.2%)	To work in Japan or Japanese companies (17.4%)	To work in Japan or Japanese companies (18.0%)	To work in Japan or Japanese companies (20.9%)
4	To study Japanese language/culture (16.2%)	To study Japanese language/culture (13.0%)	To study Japanese language/culture (9.6%)	To study Japanese language/culture (13.3%)
5	Others (5.8%)	Others (2.6%)	Others (4.4%)	Others (4.4%)
6	Acceptable range of cost(0.7%)	Acceptable range of cost(2.0%)	Acceptable range of cost(1.0%)	Acceptable range of cost(1.4%)
7	無回答 (0.4%)	無回答 (0.4%)	無回答 (0.2%)	無回答 (0.4%)

- ・ 4 つのフェアすべてにおいて、フェア参加者が日本留学を希望する理由の順位が一致した。一位は「大学における勉強・研究環境」、二位が「日本社会への興味」、三位は「留学後の日本での就職」、四位は「日本語や日本文化の習得」となる。日本の大学教育の質の高さに対する期待は大きい。
- ・ 「用意可能な費用(欧米留学に比べて学費が低額)」を理由として挙げるものは少数であった。生活費補助を含め奨学金の機会について詳細に情報提供する必要が考えられる。*フェアの全体説明会において「欧米留学に比べて日本の大学の学費は低額であること」を強調したが、フェア後のアンケート調査においても日本留学を希望する理由として「費用」を挙げるものは依然として少数であった。

日本の大学で希望する専攻分野(上位 5 位)

	学士課程・短期留学 希望者向けフェア	大学院[文系]留学 希望者向けフェア	大学院[理系]留学 希望者向けフェア	大学院留学 希望者向けフェア
1	Engineering (18.7%)	Business/Economics (24.2%)	Engineering (28.0%)	Engineering (20.0%)
2	Information Technology (13.5%)	Social Science (9.2%)	Information Technology (10.6%)	Business/Economics (15.0%)
3	Business/Economics (12.3%)	Global Studies and International Relations (8.4%)	Agriculture/Fishery (9.5%)	Information Technology (10.1%)
4	Health Sciences (8.1%)	Information Technology (6.2%)	Natural Science (8.5%)	Health Sciences (9.1%)
5	Global Studies and International Relations (5.2%)	Humanities (5.4%)	Health Sciences (8.4%)	Agriculture/Fishery (7.6%)

- ・ 学部と大学院の両方において「Engineering」や「Information Technology (IT)」の人気が高い。それ以外に理系では「Agriculture/Fishery」や「Health Sciences」の人気が高く、文系では「Business/Economics」、「Social Science」、「Global Studies and International Relations」の分野に希望が集まる。
- ・ 「日本」のもつ技術力や経済力の良い印象と、将来の就職可能性の高さが背景にあると考えられる。

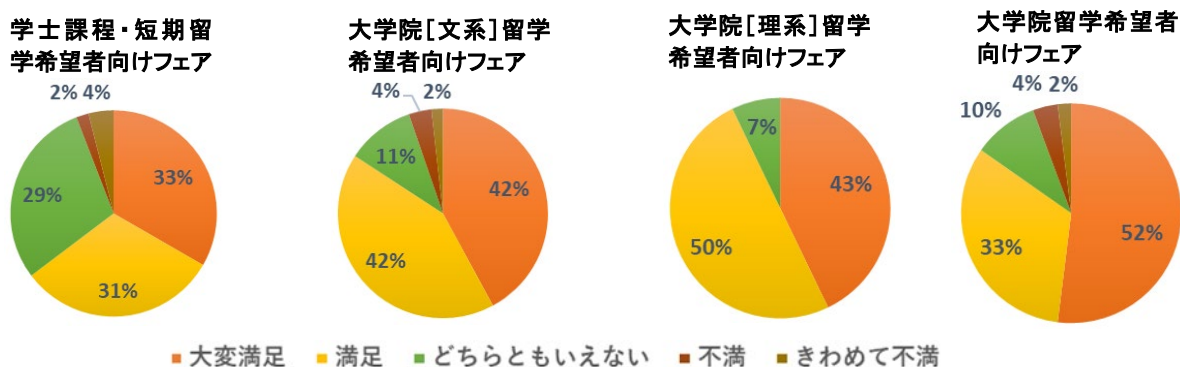
(3) 参加者の事後アンケート結果:

フェア参加者数と参加率等

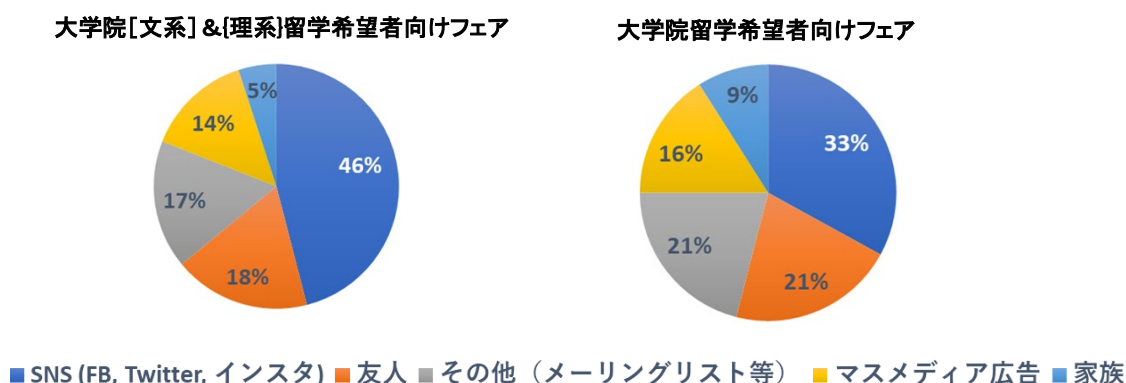
	学士課程・短期留学 希望者向けフェア	大学院[文系]留学 希望者向けフェア	大学院[理系]留学 希望者向けフェア	大学院留学 希望者向けフェア
登録者数	505	501	924	2,732
参加者数	102	133	234	407
参加率	20%	27%	25%	15%
全体説明会参加数	29	78	136	256
プログラム紹介動画参加者(延べ)	74	104	213	
グループ相談会参加数(延べ)	119	126	252	447

- ・ 登録者の中から実際にフェアに参加する割合は、2～3割程度。
- ・ グループ相談会において類似の大学プログラムが同じ日時(時間帯)に集中すると、参加者の関心が高い複数のグループ相談会に参加することが難しくなる。そのため、グループ相談会において類似プログラムが同時時間帯に集中しないようにスケジュール調整が必要となる。
- ・ 各大学のプログラム紹介動画を視聴せずに、グループ相談会に参加する者も多い。

フェア参加の満足度



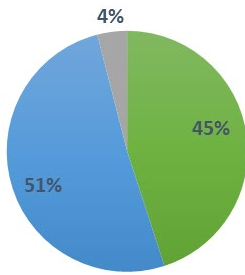
日本留学フェア開催に関する情報の入手方法



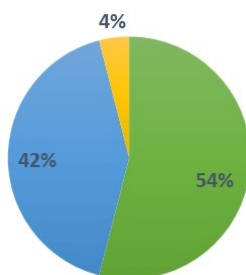
- ・ 留学フェアに関する情報の入手方法は SNS が最も高く、SNS を通して友人間で情報共有がされていると思われる。また、それ以外にもメーリングリストやマスメディア等のルートも機能していることから、多様なルートで情報を発信することが重要である。

参加者がフェア視聴時に使用したデバイス

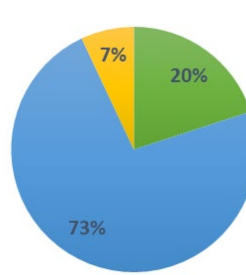
学士課程・短期留学
希望者向けフェア



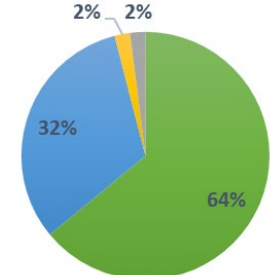
大学院[文系]留学
希望者向けフェア



大学院[理系]留学
希望者向けフェア



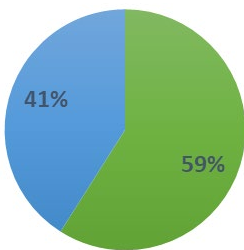
大学院留学希望者
向けフェア



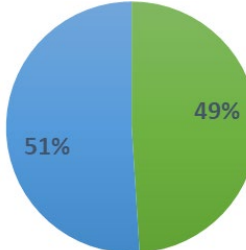
■ Smart Phone ■ PC (Personal computer) ■ iPad, Tablet ■ Others

参加者がフェア視聴時に使用したインターネット接続方法

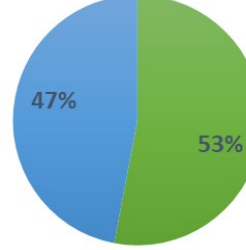
学士課程・短期留学
希望者向けフェア



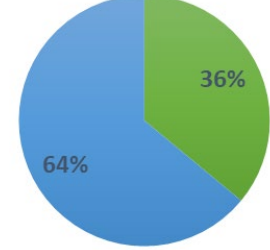
大学院[文系]留学
希望者向けフェア



大学院[理系]留学
希望者向けフェア



大学院留学希望者
向けフェア



■ Mobile data ■ Wi-Fi

- 多くの参加者はスマートフォンおよび PC を通してフェアを視聴している。また「Mobile Data」を使用してネットに接続する者が多い。「Mobile Data」とは、個人のスマートフォンなどの携帯電話を使ってネット接続することを指す。そのため、フェア特設サイトは、スマートフォン対応のレスポンスデザインにするとともに、ユーザーへの通信料金の負担を極力抑え、かつデータ通信量を少なくしてアクセスや検索できる基盤を構築することが重要である。

自由記述欄での留意すべきコメント

- **フェア運営&全体説明会:**
 - 事前登録や予約のやり方が難しい(分かりづらい)。
 - グループ相談会において類似の大学プログラムが同じ時間帯に集中している。
 - プログラム紹介動画とグループ相談会を別々の時間帯で行うのはよくない(一緒にすべき)。
 - 日本における人種差別の問題など、一般的な社会問題も扱うべき。
 - 時差の表記が分かりづらく混乱した。
- **グループ相談会&各大学プログラムの説明:**
 - 提供された Zoom リンクにアクセスできない状況があった。
 - 待機しても開始されないグループ相談会があった。
 - 参加人数制限があり、参加できないグループ相談会があった。
 - 大学プログラムの HP が十分に英語化されていない。

3. ポストコロナにおけるオンライン「日本留学フェア」実施に向けた展望

多くのサブサハラ・アフリカ諸国において新型コロナの感染状況は落ち着きつつあり、欧米諸国等への留学は既に活発化している。今後、サブサハラ地域からの学生の流動性はさらに高まり、コロナ前の水準に戻る事が予想される。日本においても入国の水際対策が緩和され、留学ビザの発給も漸く再開された。

昨年には、本事業の留学コーディネーター全員が現地に帰任し、徐々に対面での活動を再開している。他方、オンラインでの日本留学フェア開催を含めて、コロナ禍で習得したオンラインでの活動実施のノウハウは、ポストコロナにおいても有効に活用できる。以上のことを踏まえると、ポストコロナでは、対面とオンラインのハイブリット形式となるが、より効果的なアプローチを模索する観点から、以下の点を留意する必要がある。

(1) 展望①対面を含めた多角的なネットワーク構築に基づいた広報:

計 4 回のフェア開催にあたり、様々なアプローチ(SNS 課金広告、在外公館等の Facebook で広報、TV・ラジオ・新聞等のマスメディア広告等)で情報発信し、より多くの学生に日本留学を認知させ、フェアの参加者を募った。他方、これらはマス(大衆)向けのアプローチであり、優秀層をどの程度取り込んだかが定かではない。優秀層へのアプローチに関しては、サブサハラ諸国の有力大学(約 260 校)や優秀高校(約 170 校)のリストを作成し情報発信を行った。しかし、日本留学を実現化するコア・ターゲットとなる有力大学や優秀高校の学生・生徒に本邦大学を進学先として最優先で検討してもらうには、対面でのやり取りも含めて留学コーディネーターや本邦大学関係者との強い繋がりが重要である。その繋がりを構築したうえで、グループ相談会に誘導する必要があるため、以下の活動を取り組む必要がある。

- A) フェア開催前のプレイベントを実施するために留学コーディネーターが各国の有力大学や優秀校(インターナショナル校等)を訪問し、対面での日本留学フェアの広報活動を行うとともに、フェアへの登録やグループ相談会予約の方法や日本の大学へのアクセスや検索方法を説明したうえでグループ相談会に参加してもらう。
* 2022 年 2 月のプレイベントとしてケニアの有力 3 大学(ナイロビ大学、ケニヤッタ大学、ジョモ・ケニヤッタ農工大学)に留学コーディネーターが訪問し、学生に対して対面でフェアの広報活動を行った結果、留学フェア参加者 407 名中の約 3 割(117 名)がこの 3 大学からの学生の参加であった。
- B) 過去に留学フェアに参加した者に限定して、日本の大学への応募方法や受験対策などのウェビナーをフェア開催前に実施し、ウェビナー参加者をグループ相談会に誘導する。
- C) グループ相談会に参加する各大学プログラムに現在もしくは過去に留学していたサブサハラ出身の学生に協力を依頼し、同学生のネットワークを通して該当するグループ相談会への参加を促進させる。

(2) 展望②フェアにおける留学希望者と参加大学との「出会い」を「応募／受験」へと導く場:

全体説明会を視聴せずに、グループ相談会のみに参加する者も多い(例えば、フェア D では参加者 407 名中の約 4 割が該当する)。また、グループ相談会とは別に実施した各大学のプログラム紹介動画セッションの視聴をすることなく、グループ相談会に直接参加する者もいる。グループ相談会は、各大学や各プログラムの特徴を参加者にアピールする場であることから、グループ相談会の準備や提示する内容に関しては自由度を確保しつつも、冒頭部分にプログラム紹介の発表や動画を参加者に視聴させたうえで、質疑応答を展開することによって、参加者もより具体的な質問を準備できることとなる。

また、各大学プログラム担当者に対して、グループ相談会への参加を事前予約した学生の所属大学や学年、また日本語や英語の語学力スコア、日本の大学への応募経験の有無等の情報を事前共有可能にすることで、各プログラム担当者が参加者の日本留学への準備状況について事前に把握でき、応募に向けたより適切な助言の提供が可能となる。

(3) 展望③フェア後のフォローアップでの連携:

留学フェアで全体説明会やグループ相談会では、参加者の日本留学の関心を高めることには役立つが、実際に日本の大学を応募および受験させるには、プログラムの詳細を説明するウェビナー実施や個別相談のプロセスを踏むことが重要である。そのため、フェア終了後のフォローアップ活動として、各大学プログラムの応募期間に併せて、留学コーディネーターと協力してプログラム紹介の個別ウェビナーを開催することがより効果的となる。同ウェビナーでは、各大学プログラムが対象とする人材と各参加者のマッチングの確認、および応募手続きやプログラムに付随する奨学金の申請に関して詳細説明を行うことで、確実に出願するまでのプロセス支援を行う。

(了)

【御礼とお願い】

令和 3 年度のオンライン「日本留学フェア」(サブサハラ拠点主催)にご参加いただき、心より御礼申し上げます。現在、サブサハラ地域の新型コロナの感染状況は落ち着きつつありますが、新型コロナウイルス感染症蔓延以前のように、当地への本邦大学関係者の海外出張が容易に実施できるまでには時間を要するかと考えられます。他方、弊拠点の留学コーディネーターは現地での活動を再開しておりますので、是非コーディネーターと連携し、現地ネットワークをご活用頂き、優秀な学生の受け入れを進めていただければ存じます。サブサハラ地域からの留学生数の増加に向けて、引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。